

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

46

癌^{がん}の告知について



私は医師となり34年たち、外科医として多くの方の癌の診断、手術を行い、手術後

も診てきました。

現在、癌はかなり治るようになりました。5年生存率（5年経った時点で生きている割合）は乳癌であれば約90%、胃癌、大腸癌は70%前後となっています。しかし、逆に考えれば乳癌の患者さんの10%、胃癌、大腸癌の患者さんのうち30%前後の方が亡くなるということです。

現在、癌のほとんどは遠隔転移（元々できた場所以外、特に肺、肝臓、腹膜など）があるものを治すことはきわめて困難だと考えています。いつかは命に関わる状態になってくるのです。そこまでの時間は癌の種類、転移の状態、体の状態によって異なりますが、限られた時間しか無いことは確実です。

今、癌と診断した時に本人に隠しておくことはできません。個人情報保護法の考えからも本人に隠して、家族に話すこともできないようになっていきます。今の癌の状態を正確にわかりやすく話

をして自分の状態をよく理解してもらわなければなりません。その上でどのような治療が可能なのか。治療に伴う合併症などとはどのようなものがあるのか。治療後に再発する危険性はどのくらいなのか。また治療をしない場合にどうなるのか。一回の説明で病気の状態から、治療内容まで全てを理解するのはほとんど不可能で、特に最初に癌と言われた時は、ほとんどの人がその後に言われたことを覚えていないことが多いのです。ですから、何回もご本人が理解できるまでできるだけ時間をとってお話をします。

今後の治療（治療を受けるか受けないかも含めて）に関しては自分で決めなければなりません。よくインフォームドコンセントと言われ、日本語では“説明と同意”と訳していますが、よく理解し、納得しなければ同意することはできません。理解できるまで話を聞き、納得できなければ質問をすることが必要です。癌はどの人にとっても身近な病気です。癌と言われた時にあわてないように常に考えておくことが必要です。

